

ボランティア OSAKA



第20号

2000
SPRING

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティアセンター

特集
集

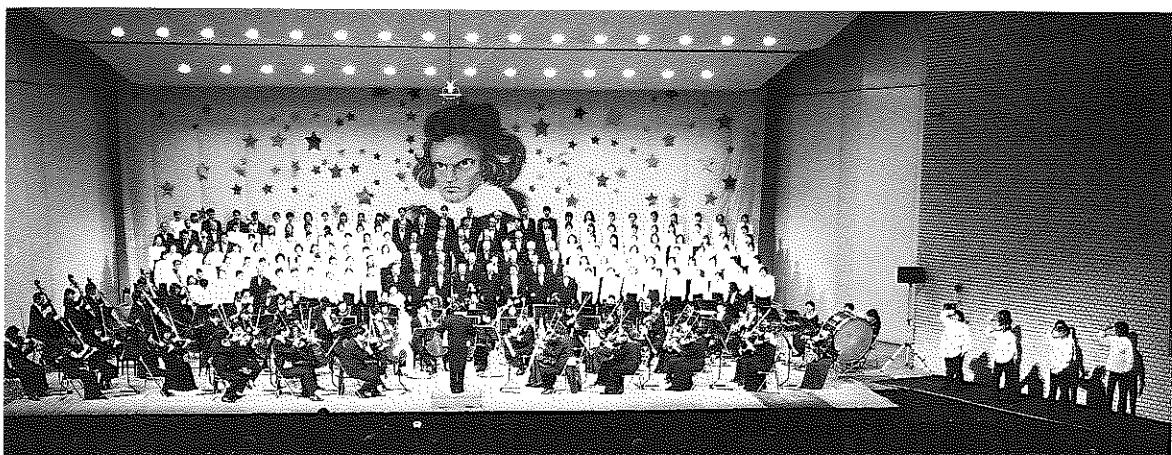
高齢者・障害者の外出を支える
移送サービスボランティアの現状と課題

●市町村ボラ連「Vサイン」No.9

障害を越えて

「歓喜の歌」で心がひとつに

～命輝け高槻第九コンサート 開催～



ステージ風景



リハーサルでも思いっきり声を出して熱唱。

障害者と健常者が共にベートーベンの「第九」を歌う「命輝け高槻第九コンサート」(同実行委員会主催)が1月30日(日)、高槻現代劇場大ホールで行われました。この試みは'90年に東京の福祉施設でスタート。ソプラノ、アルト、テノール、バスという通常の4声に加え、ハンデのある人にも歌いやすいように音域を狭めた第5パートを設けているのが特徴で、大阪では初の開催です。

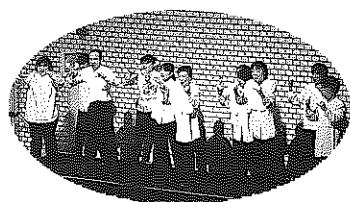
参加した250人の合唱隊のうち、高齢者やハンデをもつ障害者とその介助ボランティアなど60人が第5パートの担当。オーケストラの序奏に続き、「おお友よ！ これではない。もっと快い、もっと喜びにあふれた調べを歌い始めよう！」とバリトンの独唱で火ぶたを切った第4楽章「歓喜の歌」は、「生きる喜びの声を合わせ誰もが兄弟になる」と歌う生の賛歌です。障害者と健常者が心を重ね、力いっぱい歌い上げるハーモニーは、聴衆に明日への希望を与え、その胸に感動とさわやかな余韻を残しました。

第九は初めてという人も多く、1年以上にわたる猛特訓を経てのぞんだ舞台。演奏後、ダウン症のハンデを越えて参加した玉置輝久くん(14)からは、「ドイツ語の歌詞を覚えるのは難しかったけれど、頑張ってきてよかった」との声が聞かれました。また、南條美樹さん(21)は、「やればできるという自信になったし、障害をもつ人の頑張る姿にも励されました」とも。

関西フィルハーモニー楽団、ソリストの方々、高槻市内の障害者団体や作業所連絡会、およびこれまでの開催地である滋賀や京都から駆けつけたボランティアなどが協力して開催にこぎつけた「第九」コンサート。参加者の心に芽生えた連帯感が広がり、地域に根づいていくことを願わずにはいられません。



打ち上げ会ではみんなで合唱。長い間かけて育てた心のつながりをあらためて再確認しました。



舞台の端では堺市のふれあいサークル「手話隊」も熱演。



観客席では、肢体不自由や聴覚障害などの人たちも一緒にコンサートを楽しみました。



演奏後、指揮者の本名敏次さんと談笑する参加者。



[座談会]

高齢者・障害者の外出を支える 移送サービスボランティアの 現状と課題

移送サービスとは、外出の困難な高齢者や障害者を対象に目的地まで送り届けるボランティア。日本では電車・バス等のバリアフリーが遅れており、残念ながら車いす利用者にとって移動の自由が保障されているとは言い難い状況です。交通弱者の足となって、ドア・ツー・ドアの移動サービスを提供する運転ボランティアのニーズは近年とみに増加しており、その活動はノーマライゼーションの推進役としても期待されています。

そこで今回は、府内で同サービスを運営している10市のうち、先進的な活動を行っている4つの社協のボランティア・コーディネーターと、実際に活動しているボランティアの皆さん、および利用者側の代表として大阪脊髄損傷者協会会長・辻一さんにお集まりいただき、移送サービスの現状と課題について語っていただきました。

〈出席者〉

大阪脊髄損傷者協会会長	辻一さん
寝屋川市社協職員	合田玲子さん
寝屋川市移送ボランティア	内藤忠雄さん
豊中市社協職員	佐藤千佳さん
豊中市社協登録ボランティアグループ 「豊中アッシー」代表	岡本純子さん
八尾市社協職員	白木慶子さん
八尾市移送ボランティア	山本実さん
岸和田市社協職員	深野崇さん
岸和田市移送ボランティア	伴野正治さん

司会
大阪府ボランティアセンター



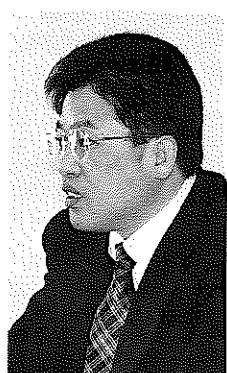
移動困難者にも 交通アクセスを



岸和田市移送ボランティア

司会 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。移送ボランティアの現状と課題を考えるために、ボランティアの方に自由にご意見を述べていただき、大阪脊髄損傷者協会会長・辻一さんに助言者としてご発言いただきたいと思います。では、まず辻さんに自己紹介をしていただき、続いて各社協の方にそれぞれの活動の概要についてお話しいただきたいと思います。

辻 脊髄損傷とは、交通事故や労災事故、スポーツ事故などによる脊髄神経の損傷で身体機能が麻痺する障害で、私は大阪に約1万人いる脊髄損傷者の当事者団体の会長をしております。



辻一さん

かつてこの国では、車いす利用者は移動が困難なことから、ほとんど家に閉じこもらざるをえませんでした。利用できる交通手段も、障害者に配慮した町づくりの考え方もなかったと言つていいでしよう。実はそんな時代、30年近く前のことになりますが「車で自由に外出したい」という運動が起り、車いす利用者でも運転免許の取得が可能になりました



佐藤千佳さん

佐藤 豊中では当初、外出支援をしている市社協登録ボランティアグループ「みちしるべ」の方々が、マイカーで通院などの支援を行っていました。またあるとき、老人介護者家族の会の会員から、こんな話を伺つたんです。「救急車で病院に運ばれたのはいいけれど、結局入院できなかつた。けれど帰りたくても救急車は家までは送ってくれない。寝台が乗る車といえば葬儀屋の寝台車しかなかつた」と。そこで平成3年に社協がリフト付き自動車の寄贈を受けて、その貸出し事業をスタートしました。

だから「移送サービスではない」のがこだわりですが、現在、寄贈された3台のリフト車を、家族の運転が可能な場合は貸出し、無理な場合は社協登録のボランティアグループ

た。その後1980年頃からでしょうか、自分で運転できない人の交通アクセスを保障するために、移送サービスという新たなボランティア活動が登場するようになりました。そこで私の所属する団体でも、ボランティア・サークルを組織して障害者の移送サービスに取り組み始めました。本日はそんな経験も含めて、いろんな角度からお話をさせていただきたくと思っています。

佐藤 豊中では、平成5年8月から2台の車でサービスを行っています。

約40名の登録ボランティアによる移送人数は月1200~1300人。高齢者が通院・退院時に利用されるケースが多く、料金は1日以内1000円としています。

白木 八尾では、平成5年8月から

2台の車でサービスを行っています。送入数は月1200~1300人。高齢者が通院・退院時に利用されるケースが多く、料金は1日以内1000円としています。

白木 八尾では、平成5年8月から

2台の車でサービスを行っています。送入数は月1200~1300人。高齢者が通院・退院時に利用されるケースが多く、料金は1日以内1000円としています。



白木慶子さん

利用者から利用申請を受けて需給調整し、前日にボランティアセンター内の連絡机に予約を貼つておき、ボランティアがそれを見て運行する…という体制をとっています。朝8時の病院受付に間に合わせたいとおつしやる場合、朝7時から出動することもあり、頑張つて下さっているボランティアさんには頭が下がる思いです。

合田 寝屋川では、「ふれあいのまちづくり事業」の指定を受けて平成8年



八尾市移送ボランティア

司会 一通り4市の事業を「紹介いたしましたが、活動の課題や要望についてもお聞かせくださいますか。

岡本 豊中では、利用目的の大半は

増加するニーズに、 機動力で対応

岸和田社協でも寝屋川と同様、「ふれあいまちづくり事業」の指定を受け、車3台で、月平均60～70件の移送を行っています。1号車は市内の遊技業組合、つまりパチンコ屋さんからいたため、「パニーカード」をもじって「パニーカー」（笑）。

2号車は歳末たすけあいからいた車なので「歳末カー」。そんなネーミングで、利用者の皆さんに親しんでいただいています。

車の貸出しと、要望があれば運転者を派遣するという2本立て事業ですが、ほとんどの場合はボランティアさんが運転してサービスを行っています。市内および隣接市町村の場合1回500円、それ以外は距離に応じて計算する…という料金体系です。



合田 玲子さん

6回という制限も見直しの検討が必要

利用者の「ありがとう」が 大きな励み

内藤 私は定年をきつかけに、まことに何かのボランティア活動を…と始めました。タクシーの運転手なら輸送だけのサービスですが、私たちの活動は、利用者をベッドから車いす

へ運ぶ機動力を高める上で役立っています。岸和田社協でも寝屋川と同様、「ふれあいまちづくり事業」の指定を受け、車3台で、月平均60～70件の移送を行っています。1号車は市内の遊技業組合、つまりパチンコ屋さんからいたため、「パニーカード」をもじって「パニーカー」（笑）。

合田 そうですね。寝屋川でも270人いらっしゃる利用登録者のうち、定期的に通院する方がどうしても予約を入れやすく、利用が集中していました。通院が不定期なとの利用頻度の差は大きく、この不公平感をどうするか：が問題となりました。そこでやむなく、身体障害1・2級で車いす利用者は月6回まで、その他は月2回という制限を設けました。それでもお断りするケースが多く、現在では月

4月より移送サービスを開始しました。ボランティア68人が登録し、1日6～7人、月平均126人を車2台で移送しています。料金は市内の場合、片道500円で往復は800円。スケジュール表に予約をどんどん詰めていき、ある人を病院まで送った足で別の人を連れ帰る…という風に、できるだけ効率的に車を動かすようにしており、携帯電話の支給もまた機動性を高める上で役立っています。

深野 岸和田社協でも寝屋川と同様、「ふれあいまちづくり事業」の指定を受け、車3台で、月平均60～70件の移送を行っています。1号車は市内の遊技業組合、つまりパチンコ屋さんからいたため、「パニーカード」をもじって「パニーカー」（笑）。

2号車は歳末たすけあいからいた車なので「歳末カー」。そんなネーミングで、利用者の皆さんに親しんでいただいています。

車の貸出しと、要望があれば運転者を派遣するという2本立て事業ですが、ほとんどの場合はボランティアさんが運転してサービスを行っています。市内および隣接市町村の場合1回500円、それ以外は距離に応じて計算する…という料金体系です。

6回という制限も見直しの検討が必要

4月より移送サービスを開始しました。ボランティア68人が登録し、1日6～7人、月平均126人を車2台で移送しています。料金は市内の場合、片道500円で往復は800円。スケジュール表に予約をどんどん詰めていき、ある人を病院まで送った足で別の人を連れ帰る…という風に、できるだけ効率的に車を動かすようにしており、携帯電話の支給もまた機動性を高める上で役立っています。

深野 岸和田社協でも寝屋川と同様、「ふれあいまちづくり事業」の指定を受け、車3台で、月平均60～70件の移送を行っています。1号車は市内の遊技業組合、つまりパチンコ屋さんからいたため、「パニーカード」をもじって「パニーカー」（笑）。

2号車は歳末たすけあいからいた車なので「歳末カー」。そんなネーミングで、利用者の皆さんに親しんでいただいています。

車の貸出しと、要望があれば運転者を派遣するという2本立て事業ですが、ほとんどの場合はボランティアさんが運転してサービスを行っています。市内および隣接市町村の場合1回500円、それ以外は距離に応じて計算する…という料金体系です。

6回という制限も見直しの検討が必要

通院利用なんです。そんなこともあって、診察が終わるまでの時間が読めないのでボランティアの待ち時間が長くなる…というのが悩みの種。なんとか、もっと効率的な活動ができるないかと考えています。

山本 八尾では寝屋川同様、社協から支給されている携帯電話で連絡をとりあってロスのない動きを心がけ、多くの移送回数をこなしていますが…。ただ従来より、同じ人ばかり利用される傾向があり、これが問題となっていました。そこで、より多くの市民に利用していただき…という意味から平成11年より「利用は週1回」という制限を設けました。これがいいのかどうかは判断に迷うところではありますが…。

合田 そうですね。寝屋川でも270人いらっしゃる利用登録者のうち、定期的に通院する方がどうしても予約を入れやすく、利用が集中していました。通院が不定期なとの利用頻度の差は大きくなり、この不公平感をどうするか：が問題となりました。そこでやむなく、身体障害1・2級で車いす利用者は月6回まで、その他は月2回という制限を設けました。それでもお断りするケースが多く、現在では月

6回という制限も見直しの検討が必要

深野 ニーズに対応しきれない…というのは岸和田でも同様。私どものところでは利用回数を月2回までに制限しており、断るケースが多くなっているのが悩みの種ですね。



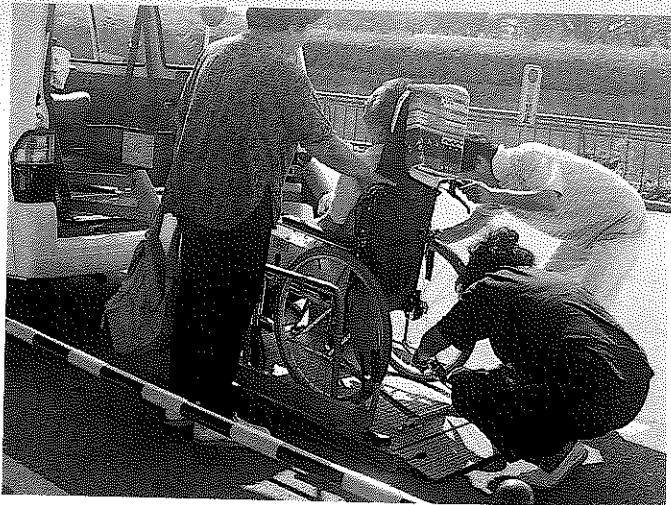
深野 崇さん

司会 移送のニーズが大きいのに、対応に限界がある……ということが課題となっているようです。もちろん、ボランティアがすべてのニーズを満たす……ということは不可能で、公的サービスの整備も求められるところで

すが、当面は寝屋川と八尾で導入されておられるように、携帯電話の支給等で連絡体制を整え、機動力のアップを図る必要がありそうですね。

さて次に、ボランティアの皆さん方に移送サービスに関わられたきっかけ

が、また、このボランティア活動のやりがいなどについてお話をいただきたいのですが。



豊中社協登録ボランティアグループ「豊中アッシー」

に移つていただきところから始まります。いわばガイド・ヘルパー的な役割も果たしており、「利用者の生活に寄り添う」という喜びがあります。これがやりがいでですね。

岡本 私自身は運転が好きだったのと、要介護の親を持った体験から、社会にいろいろお世話をなつたお返しをしたい:と思つて始めました。活動をするなかで思うのが、移送サービスはこんなに必要なにすべてをボランティアで:…というのは、司会者も言われたように、少し違うのでは:…ということです。病院や施設、



岡本 純子さん

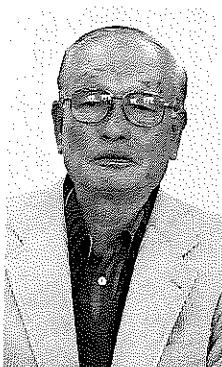
また行政もボランティア任せではなく、もっと移送サービスを積極的に考えていただきたいし、多くの人が利用できる社会的なシステムづくりも大切だと思います。

内藤 私も岡本さんと同じように、車の運転が好きだったので活動に加わりました。退職後1年ほど遊んでいたんですが、それはもう退屈で退屈で(笑)。

活動を始めて解つたのが、利用者の方のほとんどが、お一人暮らしとすること。孤独を感じておられる方も少なくない。そんな皆さんといろんな話を聞く中で感じる、心のふれあい“がありますね。

岡本 私自身は運転が好きだったのと、要介護の親を持った体験から、社会にいろいろお世話をなつたお返しをしたい:と思つて始めました。活動をするなかで思うのが、移送サービスはこんなに必要なにすべてをボランティアで:…というのは、司会者も言われたように、少し違うのでは:…ということです。病院や施設、

山本 ボランティアすることで誰かの役に立つていて…と思うと、家にいるより朗らかになれますよね(笑)。それが活動を持続させるエネルギーがにもなつていく。自分の人生が他の誰かの役に立つていて…これを実感できるのが嬉しい。



山本 実さん

伴野 そう、私の場合は利用者から「ありがとうございます」という感謝の言葉が、何にも代え難い励みになっています。

内藤 それは私も同感。ただ、私たちボランティア自身も多くはシルバー世代。利用者をベッドから起こすなどの介助作業で、腰をいためることもあります。介助者の役割を誰がどこまで担うかは今後の課題でもあると思うんです。

求められる「制度整備」

司会 さて、いま全国的に実施されている移送サービスを大きく分類すると、行政直営、行政や社協によるボランティアの組織化、行政によるタクシー会社への委託形式(福祉タクシー)の3種類があるとされています。そんな中の皆さんの取り組みを聞かれて、辻さんはどんな印象を持たれたでしょうか。

辻 お聞きしていくて、大阪では移送サービスを潔くやっているなあ:…と感心しました。無償ボランティアが支えているからこそ、1日1000円~2000円という、利用しやすい価格設定が可能ですね。東京都では、都の奨励事業として助成金を出し障害者団体などが運営していますが、都内および近県の移動で、最低でも3000円から5000円かかります。

また行政助成による福祉タクシーは、大型タクシー料金だから非常に高い。また流しで走らせていないため、呼んでから来るまで時間がかかる。また流しで走らせていないため、利用しにくい。とはいってもやはり外出したいというニーズはますます増えており、そこで皆さんのように、比較的安い利用料でサービスを提供する移送ボランティアの活動がますます求められてくることになります。ただ、現時点では法律上の問題もあって、有償ボランティアをどう位置づけるについてはさまざまな議論がなされているのが現状です。というのも道路運送法に「自家用自動車は、有償で運送の用に供してはならない」とあり、有償で行う移送サービスは白タク営業ではないかという批判もあります。現に、あるタクシー会社からはそんな声もあがっています。ちなみに、東京では法律に抵触しないように入会金と年会費を取る登録制で移送サービスを行っている例がありますが、活動主体をNPO法人化するなど、ここにきて一定の制度整備が必要になってきて



いるとは思いますね。

伴野 ニーズがあるのだから車を増やしてサービスを拡充させればよい…という単純な問題ではなさそうですが、私たちの活動が、今後さらに求められていくであろうことは私も日々感じています。そして「ボランティアをしたい」という人も増えている。利用制限などもできるなら撤廃し、市民のボランティア意欲を吸い上げるシステムを構築していくだけです。



伴野 正治さん

辻 先ほど寝屋川の内藤さんが「運転ボランティアにもガイドヘルパー的役割が求められる」と言われましたが、障害者の場合で言うと「レクリエーションや観光にも利用したい」という希望がたくさんあり、多くのガイドヘルパーがそれに対応しています。これからは高齢者の中にも、例えば「コンサートの送迎だけではなく会場までついてきて一緒に鑑賞してくれたらとても助かる」とか、「花見に行きたい」とか「高級レストランで食事をしたい」といった、一見、贅沢なりクエストも増えてくると思います。今後は、そんなニーズにどう対応するのか…も議論されてくるのではないかでしょうか

山本 レクリエーションで移送サー

ビスを利用されることについて、私は全然抵抗ありませんね。八尾では、墓参りなどの要望にも対応していますし、春にはきれいな桜を見せてあげたい…という気持ちから、遠回りしていくこともあります。

内藤 ただ、ヘルパー的役割…といふことになると、今の段階では限界があるように思います。一度、介助者として同乗されたご主人がけいれん発作を起こされたことがあり戸惑いましたが、利用の幅を広げると言ふことは、さまざまにケースに遭遇するということ。そこでは、多様な事態に対応できるためのトレーニングも必要になってくるのでは…。



内藤 忠雄さん

合田 寝屋川では家庭介護ボランティア・グループに応援を頼んだことがあります。そこには、高齢者の中にも必要になつてくる。

辻 ともあれ、高齢者・障害者を問わず、家に閉じこもつて生活に変化がなくなり、肉体も精神も衰弱してしまいます。そこで障害者の場合、外に連れ出しが肉体的にも精神的にもハッピィ効果が大きいと言わっていますが、お年寄りも同様だと思います。また、八尾の山本さんがおしゃつたように、寄り道して桜の花を見せてあげたりすることはとても

素晴らしいことだと思いますし、また利用者の喜ばれる様子を見ることが、ボランティア自身の喜びにもなる。このように、単なる送迎サービスではなく、ふれあいを味わえるのがボランティアの醍醐味です。

司会 いまのところ移送サービスは介護保険のメニューに入つていませんが、施設への送迎などをはじめ、ドア・ツー・ドアのサービスに対するニーズは今後増えていくのは間違いないところ。リフト車の確保や、制度としてサービスが実現することを目指しつつ、地域の多様なニーズに柔軟に対応していく必要があります。ボランティアならではの活動を工夫していくためにも、皆さんのご活躍を期待したいと思います。

本日は長時間ありがとうございました。

介護保険スタートを目前に

「介護保険とボランティアの役割を考える 講演とシンポジウム」開催



去る2月12日（土）、大阪社会福祉指導センターにおいて、市町村ボランティアによる「介護保険と家族・ボランティアの役割を考える講演とシンポジウム」が開催されました。これは、介護保険についての理解を深め、今後の関わり方と果たすべき役割について考えようというもの。

いよいよ4月に迫った介護保険スタートを目前に、当事者である家族にとって、そして現場で活動するボランティアスタッフにとって切実な問題となつて、現場で活動するボランティアと家族の立場と役割はどのように変化していくのか…ということです。

関係者の関心の高さを反映して、当日は144人の参加者で会場が埋まり、熱気あふれる3時間となりました。

期待される ボランティアの積極的な関与

基調講演では、大阪体育大学附属福祉専門学校専任講師兼研究部長の安場敬祐氏を講師に迎え、「介護保険による介護サービスとは……」

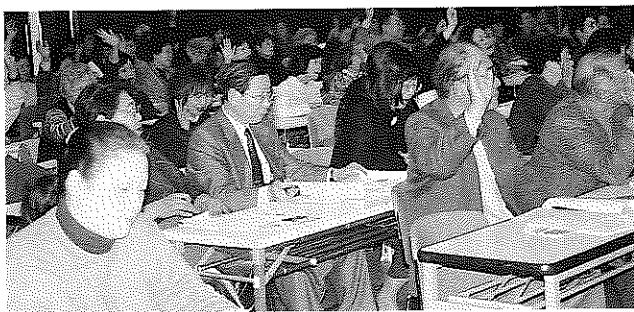
と題して、介護保険のしくみと問題点、そしてボランティアと家族に期待される役割などを中心にお話いただきました。

まずは保険料決定や要介護認定のしくみについての説明があり、「あなたの徴収される保険料は?」といった具体的な例に会場の参加者も興味津々。明快な解説にしきりとうなずく姿があちこちに見受けられました。

基本構造の説明に統いて、今後考えていくべき問題点について指摘。サービスに対する苦情処理制度が不足している現状や、「契約」システムの中で新たに発生する権利擁護問題対策に取り組みななどが紹介されました。

また、その中で家族とボランティアに対しても、「地域に密着した存在であるボランティアが、介護保険のオブンズマン的な役割を担っていくことが期待されている」と、強調された。参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

現場関係者から見た
介護保険の可能性と問題点



続くシンポジウム「介護保険と家族・ボランティアの役割を考える」では、大阪府ボランティアセンターの青木美知子所長補佐をコーディネーターに、稲葉稔彦さん（大阪府老人介護者家族）の会連絡会会长長）、大杉貞子さん（大阪府市町村ボラ連副会長）、真鍋好野さん（特定非営利活動法人生活ネットワーク『虹』代表）、稻谷弘子さん（豊中市西丘地区社会福祉協議会

会長）、水原守さん（寝屋川市ひとり暮らし老人の会連絡会会长長）の5人がシンポジストとして参加。それぞれの立場から高齢者支援ボランティアの現状報告がありました。

大杉さんと稻谷さんからは、地域の見守り活動の事例が紹介され、また、真鍋さんはNPO法人に至る過程と介護保険導入後のボランティアの役割についての期待が語られました。稲葉さんは、グループの活動と利用者の立場からみた介護保険と行政への要望。そして水原さんは、会員のケース紹介と介護保険への辛口の問題指

摘がありました。

実体験に基づいた興味深い内容に会場の参加者も大いに触発され、「通院介助は介護保険の対象か」「より重度の認定を受けることを望む傾向があるよう思うが、その問題をどう考えればよいか」「ボランティアが心のケアを担うべきか」など、介護保険についての質問や日頃の活動で感じる疑問などの発言が相次ぎ、介護保険への高い関心がうかがえる催しとなりました。

BARRIER FREE 2000

高齢者・障害者の快適な生活を提案する国際総合福祉機器展

イラスト提供/Waha

2000年4月20日(木)▶22日(土)

10:00~17:00

インテックス大阪(1・2号館)



(社福)大阪府社会福祉協議会 テレビ大阪

運営/パリアフリー展運営事務局
〒550-0014 大阪市西区北堀江1-1-25 TEL 06-6543-2207 FAX 06-6543-2209 <http://www.itp.gr.jp/bf/>





さまざまなかつらぎ交流会 さまでまな活動と問題について考えた、

日時 2月19日（土）午後1時30分～4時
場所 池田市立池田駅前南会館

分散会① 「施設ボランティア活動について」（16名）

各市の活動状況報告

高槻市 富田町病院で入浴手伝い、シーツ交換、デイサービス介助、車椅子介助、掃除など約20種類。「地域は我が家、この地で暮らしたい」をスローガンに活動。ボランティアの平均年齢が高くなっているので、若い男性の参加を期待している。

箕面市 市立病院の手術衣など10人のグループで月1回補修活動。老人給食ボランティアにも参加している。

吹田市 特別養護老人ホームでのシーツ交換（月2回）、リハビリ、歌体操、デイサービスでの活動。市立病院の案内・受付、車椅子のガイドなど。

茨木市 病院・老人施設・デイサービス・共同施設で、入浴・脱衣・湯茶・喫茶など。教育の一環として参加している中高生ボランティアの態度や挨拶には見習うべきものがある。藍野病院（痴呆・アルコール依存症）と一緒に歌を唄うグループもある（月3日）。

摂津市 2カ所の老人ホームでデイサービス手伝い、喫茶ボランティアなど。季節毎に花見・盆踊りなど実施。夏は

- ◎施設職員（パート含む）とボランティアとの関わりについて
 - ・職員の中には、ボランティア活動を理解してもらえない人もいる。ボランティアの気持ちを理解してほしい。
 - ・ボランティアに手伝ってもらうと心配だという職員もいる。
 - ・施設長や幹部によって、ボランティア受け入れの姿勢が左右されてしまう。
 - ・入居者に喜んでもらえるために動いている。
- ◎資金捻出について
 - ・施設の前で週1回2～3時間のミニバザーを実施し、地域の方からの寄贈品を販売したが、一部の人から批判があった。
- ◎ボランティアの手伝いの範囲。身体に触れることについて
 - ・爪切り、ひげ剃りを頼まれ、どうすればいいか困った。
 - ・事前に施設側と確認しておくこと。
 - ・する人やしない人がいると誤解が生じるので。

- ・ボランティアも無責任にならず、信頼感を持つてもらえるよう努力する。
- ・ボランティアの手伝いの範囲。身体に触ることについて
 - ・爪切り、ひげ剃りを頼まれ、どうすればいいか困った。
 - ・事前に施設側と確認しておくこと。
 - ・する人やしない人がいると誤解が生じるので。

分散会②

（月1回または2カ月に1回）
市立病院でクリスマスコンサート。歌体操グループが、市内4施設を訪問

○ボランティア層の高齢化と若い人の参加について

- ・若い人は仕事のため、休日しか参加できない。高齢者とはボランティアに対する価値観が違つたりするため長続きしないことも。
- ・定年後の男性が増えた。
- ・在学中のボランティア経験が層を広げることになる。教育現場への期待がある。

- ・教育改革で総合的学習の時間が始まる。ボランティア活動や地域代表者による学習、労働体験など。将来は若年層の参加が期待できる。
- ・自主活動を進めたいと考えている。
- ・豊能町 一人暮らし生活者に対する食事会を1年半ほど続けていた。運営は手探り状態で、社協の下請け感があり、

ボランティアグループ・連絡会の運営について（21名）

〈市町村代表による活動報告〉

豊能町 一人暮らし生活者に対する食事会を1年半ほど続けていた。運営は手探り状態で、社協の下請け感があり、

た。脳性麻痺児も1ヶ月あまりの練習



河南

河南ブロック交流会開催

社協の給食サービスチームの 特製お弁当に舌づづみ

3月1日、今年度第2回目の河南ブロック交流会が柏原市健康福祉センター「オアシス」で開かれ、9市町のボランティア連絡会から44名が参加し、盛大かつ和やかに開催されました。

このオアシスは昨年完成したばかり。3階建てで、保健センターと柏原かつ和やかに開催されました。

市社協事務局が入っていて、子育てや在宅介護の支援センター、ボランティア活動など地域福祉センターの機能を持っています。

交流会は午前11時に開会。柏原市ボランティア連絡会会长の畠山さんが、明るいお人柄どおりのくだけた雰囲気で会を進められ、まずは出席者の自己紹介が行われ、続いて柏原市社協の給食サービスと調理ボランティアの活動の紹介がありました。

給食は週3回、特養施設の分も週1回作っていて、パック詰めの見本を見せていただきました。オアシスの広い調理室を使ってるので単価は300円との説明に、参加者から「すごく安い」と感嘆の声も出ました。

その秘密はどうやら、地元のスーパー・や商店の協力とともに、野菜作りをしている「つちっこ」というグループが活躍していることにあります。申込みの受付けや経理はすべて社協が担当し、献立は栄養士が作成。配食は別の地域ボランティアが担当しており、調理に専念する10数人はグループ100人から交替で出るという体制です。

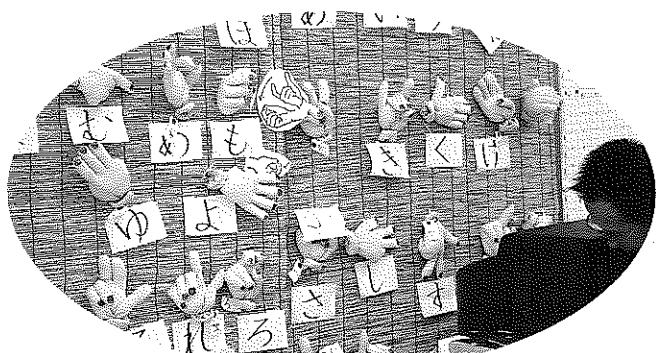
交流会の昼食には、特製のお弁当を頂きました。老人会などから行事の時に注文があれば作っているものだ、と



おいしいお弁当に会話も弾む、楽しいひとときとなりました。



センター屋上にある“健康遊歩道”。「石の突起の上を歩くので痛いけど、体がぽかぽかして快適」と毎日のように通う市民もいるとか。



ボラセンの壁には手話の指文字が。てぶくろで立体的に表現されており、わかりやすいと好評。

市の初参加もあって、情報交換が活発に行われ、給食サービス、移送サービス、学校教育活動、精神障害者支援、メンズボランティアなどが話題となり、連絡会の運営状況も報告がありました。

昼食後はセンター内を自由に見学し、午後からは各連絡会の代表による活動報告がありました。

今回は、ボラ連発足準備中の藤井寺

河北

率直な意見交換で、有意義な一日に

2月28日、「ラポールひらかた」で大坂府市町村ボランティア連絡会主催の河北ブロック交流会が開催されました。まず枚方市社協より挨拶があり、枚方市においてボランティア団体や個人への市長表彰を始めたこと、より広くボランティア全体を支援していくセンターを現在検討していることが報告されました。つぎに府社協ボランティアセンターの青木所長補佐が、まもなく導入される介護保険制度にどう対応していくかボランティアの担当べき役割のガイドラインをつくる段階にあることを示唆されました。



第一部、「わが街のボランティア事情（枚方編）」では最古参の「あゆみ」から新加入の「デイジー枚方」まで13グループが活動状況のみならず呼びかけや悩みもまじえて真摯に報告。それを受けて第二部で各市間の意見交換に移り熱のこもった活発な質疑応答が繰り広げられました。

「増え続けるニーズに対応して1人の活動頻度はどうくらいか」「保育送迎にどこまで対応しているか」、

阪府市町村ボランティア連絡会主催の河北ブロック交流会が開催されました。まず枚方市社協より挨拶があり、枚方市においてボランティア団体や個人への市長表彰を始めたこと、より広くボランティア全体を支援していくセンターを現在検討していることが報告されました。つぎに府社協ボランティアセンターの青木所長補佐が、まもなく導入される介護保険制度にどう対応していくかボランティアの担当べき役割のガイドラインをつくる段階にあることを示唆されました。

第一部、「わが街のボランティア事情（枚方編）」では最古参の「あゆみ」から新加入の「デイジー枚方」まで13グループが活動状況のみならず呼びかけや悩みもまじえて真摯に報告。それを受けて第二部で各市間の意見交換に移り熱のこもった活発な質疑応答が繰り広げられました。

「各種イベントの費用捻出はどこからか」「手話・ディケアは数団体あるが、どう住み分けているか、常に交流をはかっているのか」など核心にふれた率直な質問が寄せられました。

とりわけ専門技術系の人材確保に関する心が集中。点証・音証・介護法の指導などは「活動に応じて新人養成が経験者スカウトか、事情に照らして工夫しています」との答えがあり、期せずして直面している課題が浮き彫りになりました。人材不足について各市共通の悩みと伺いました。閉会後、福祉資料コーナーや情報製作室のほか、階下のブール・ディサービスなども見学していました。

当日は當番市としてあります。そのままの姿をお見せただけですが温かな助言やヒントをいただき嬉しく思いました。

その他にもいろいろ多岐にわたる活動に日々活躍しておられることをうかがい、今更ながら感心しました。そして今の社協には、このようなボランティアが本当に必要とされることを痛感致しました。

「あいびあ泉州」3階のセンター運営は、連絡協議会と社協とが共同で行っています。月～金曜日の毎日を午前・午後に分け、会員が当番制で担当。センターをたずねて来られる方への対応や、電話番をしたり事務的な仕事の手伝いをします。

このセンターをもっと活力ある場所にするために、連絡協議会から他のボランティアグループへの呼び掛けが始まりました。近いうちにもつとたくさんボランティアグループが出入りするセンターとなることを期待しています。

（枚方市ボランティア
グループ連絡会）

泉州

真心こめた会場づくり 泉州市ボラ連による

泉州ブロック交流会開催

2月23日（水）泉州ブロック交流会を私達の街、泉南市総合福祉センター「あいびあ泉州」で開催しました。当日は、多くの方々をお迎えするとあって準備にも力が入り、「お花の位置はここがいい」とか「名札の向きはこの方が」とか、皆一つひとつ真剣です。

交流会が始まると、和やかな雰囲気で自己紹介や各地の活動報告が。小地域ネットワーク、朗読ボランティア、点証ボランティア、イベントの手伝い、調理のボランティア……

その他のにもいろいろ多岐にわたる活動に日々活躍しておられる方たちが、今更ながら感心しました。

そして今の社協には、このようないい處をもつたたくさんのボランティアが本当に必要とされることを痛感致しました。

登校児の親の会からの呼び掛けに取り組んでおられる岸和田市の活動について伺いました。また、要請があった時、それを受けるに当たってボランティアの好意だけに頼るのではなく、費用等についてもしっかりと話し合うことの必要性について



ボランティアセンターの運営について

（泉南市ボランティア連絡協議会）

「あいびあ泉州」3階のセンター運営は、連絡協議会と社協とが共同で行っています。月～金曜日の毎日を午前・午後に分け、会員が当番制で担当。センターをたずねて来られる方への対応や、電話番をしたり事務的な仕事の手伝いをします。

このセンターをもっと活力ある場所にするために、連絡協議会から他のボランティアグループへの呼び掛けが始まりました。近いうちにもつとたくさんのボランティアグループが出入りするセンターとなることを期待しています。



3

プール遊びボランティアを募集！

- 活動内容**: 知的障害のある4歳の男の子と、プールで遊んでください。
- 日 時**: 月2回程度、できれば土・日に。詳細は、ご相談の上です。
- 場 所**: クリーンピア21（柏原市内のプール）
近鉄南大阪線 道明寺駅
- 問 合 せ 先**: TEL 0729-72-6786
FAX 0729-70-2173
E-MAIL fureal@mva.biglobe.ne.jp
社会福祉法人 柏原市社会福祉協議会
(担当/末永、前川)

4

身体障害者作業所のホームページ作成を手伝ってください。

- 活動内容**: ホームページ構成から立ち上げ、定期的な更新までかかわって頂けるボランティアの方、大募集いたします。パソコンに詳しい方や、興味のある方ぜひご協力を！
- 日 時**: 平日10:00～19:00の間で（応相談）
- 場 所**: ライフ・ネットワーク
(大阪市住吉区大領5-10-16)
地下鉄御堂筋線・JR阪和線 長居駅
徒歩約10分
- 募 集 対 象**: パソコンのできる方どなたでも。
- 費 用**: 交通費1000円まで支給します。
- 問 合 せ 先**: TEL 06-6607-8260
FAX 06-6607-5503
E-MAIL lifenet@nyc.odn.ne.jp
ライフ・ネットワーク (担当/高井)

5

バザー用品＆バザースタッフ大募集！

- 活動内容**: アジアに井戸を贈る運動を支えるためのチャリティバザーにご協力を。バザー用品の提供、バザーの準備および販売をお手伝いください。
- 日 時**: 月～土曜日 (日・祝休み)
10:00～19:00のうち、ご都合の良い日時に。
- 場 所**: アジア協会 アジア友の会
(大阪市西区江戸堀1-2-16 大一ビル4階)
地下鉄四つ橋線 肥後橋駅 徒歩5分
京阪 淀屋橋駅 徒歩5分
- 募 集 対 象**: どなたでも。
- 問 合 せ 先**: TEL 06-6444-0587
FAX 06-6444-0581
E-MAIL jafs@i.bekkoame.ne.jp
(社団) アジア協会 アジア友の会 [JAFS]
(担当/栖間くすま)

Vクリッピングボード

ボランティアをやってみたい！
そんなあなたに耳寄りな情報満載



さあ、ボランティアしよう！

〈ご利用にあたって〉

ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合わせの上、条件等を話し合ってから、参加してください。

●このコーナーに記載の情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.ovn.gr.jp/>

1

野鳥の観察から環境を考えましょう。

- 活動内容**: 矢倉海岸におとずれる野鳥の観察と記録
- 日 時**: 毎月第3土曜日 9:30～12:00
- 場 所**: 矢倉海岸
阪神西大阪線 福駅 徒歩40分
- 募 集 対 象**: 専門学校生以上で関心のある方。初心者・外国人、グループでの参加歓迎。
- 費 用**: 保険料(会員100円、一般200円)
- 問 合 せ 先**: TEL 06-6475-8885
FAX 06-6475-5885
E-MAIL webmaster@aozora.or.jp
(財) 公害地域再生センター [あおぞら財団]
(担当/三宅)

2

老健施設の行事を盛り上げてくださる方をお待ちしています。

- 活動内容**: 当施設の行事の中で入通所者のお年寄りを慰安してくださるような持ち芸、得意技をお持ちの方を募集します。気軽にどうぞ。
- 日 時**: 当施設の行事の日 (誕生日会や春まつり・納涼大会等季節のイベント開催日)
※誕生日会は毎月2回 (1日と第2日曜日)
- 場 所**: サンライフ八尾 (大阪府八尾市福栄町1-12)
近鉄大阪線 山本駅より近鉄バス「青葉町」下車徒歩10分
- 募 集 対 象**: 一芸に秀でた方ならどなたでも。
- 費 用**: 交通費は自己負担。食事は季節行事の時のみ施設にて用意します。
- 問 合 せ 先**: TEL 0729-97-0531
FAX 0729-97-8053
サンライフ八尾老人保健施設 (担当/中村、河合)

●ボランティアの集い 「みんな集まれ!! ボランティア」

日時 5月14日(日) 11時～15時

場所 茨木市役所前中央公園南グリーンゾーン
内容 模擬店・バザー、ミニコンサート、各種体験

コーナー、パネル展示など

主催 茨木市ボランティア連絡会

問い合わせ 茨木市ボランティアセンター
TEL 0726(27)0033

※当日協力してくださるボランティアさんも募集しています。

●ボランティアと障害者・児の着物着付け教室

着物の着付け教室を通じて、障害者・児のQO

向上、ボランティアとの交流を図ります。

日時 4月6日～7月13日の毎木曜日(5月4日、
6月22日は除く)全13回 13時半～16時

場所 市立池田駅前北会館 和室

講師 若松 瑞さん

参加費 無料

対象 池田市内在住の障害者・児とその家族、ボラ

ンティア活動を希望される方

定員 20名(先着順)

申込み 池田市ボランティアセンター

TEL 0727(53)8858
FAX 0727(53)3444

●平成12年度 ボランティアサロン

より多くの人にボランティア活動に参加していただ

くことを目的に、活動の基礎知識や施設活動の情報提

供、グループの紹介を行なう毎月開催のサロンです。

○4月6日(木)

・講演 「介護保険後のボランティア活動」
(高槻市社会福祉協議会 松永喜雄・業務係長)

・グループ活動紹介とニーズ紹介・活動交流
○5月11日(木)

・講演 「介護保健施設のボランティア活動」
・グループ活動紹介とニーズ紹介・活動交流

○6月1日(木)

・講演 「介護保健施設のボランティア活動Ⅱ」
・グループ活動紹介とニーズ紹介・活動交流

時間 13時～16時

会場 高槻市ボランティアセンター
(高槻市細屋町3-1-303)
たかつき3号館)

対象 ボランティア活動を希望される方約
30名 ※参加費は無料です。

申込み 高槻市ボランティアセンター
TEL 0726(83)2200
FAX 0726(83)2209

●「ネットとよなか 企業ボランティアセミナー

”企業がかわる まちがかわる“

日時 5月20日(土) 14時～16時

場所 働く婦人の家(阪急岡町駅下車)

内容 ・講演 大阪府立大学／牧里毎治さん
・パネルディスカッション／企業社会貢献担当者

主催 豊中市社会福祉協議会 企業・団体ボランティ

アネットワーカーとよなか
問合わせ TEL 06(6841)9393

今夏、大阪府堺市を主会場に、世界70カ国・地域
から2000人芸能演者が集う世界民族芸能祭が
開催されます。このイベントを支えるボランティア
「フェスティバルフレンズ」2000人を4月より
大募集! 多数のご応募をお待ちしています。

場所 ジオ会場／堺市大仙公園(つばけ舌鳥野)
ベイ会場／堺旧港周辺(南海堺駅)
会期 7月28日～8月6日
募集人員 写真・ビデオ映像記録スタッフ／通訳ス
タッフ／ベイ会場スタッフ／出演者セントースタッ
フ／舞台スタッフ／ねこ祭りパレード参加者／大田
楽パレード参加者／博物館展示エリアスタッフ／運
営スタッフ／交流の村スタッフ
※それぞれ募集条件が異なりますので、募集パンフレットを
ご覧ください。

応募方法 募集パンフレットの応募用紙に記入の
上、左記へ持参、郵送またはFAXください。
主催 西暦2000年世界民族芸能祭組織委員会
(会長／大阪府知事、委員長／堺市長)

申込み・問合わせ
TEL 0591-8037 堀市西古島赤畠町1-3
「フェスティバルフレンズセンター」

FAX 0722(54)8771
TEL 0722(54)8772

※募集パンフレットは、堺市役所・各支所・府民情報ブリッジ、
府・市町村ボランティアセンター等で配布しています。郵送
希望の場合、返信用切手(40円を同封し、住所・氏名・電話番号を明記の上、右記までお申し込みください)。

●西暦2000年世界民族芸能祭 「ワッショイー 2000」 フュステイバルフレンズ募集

問合せ 豊中市社会福祉協議会
TEL 06(6841)9393



West 2000 World Ethnic Art Festival
http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc/



平成12年度 ボランティア総合補償制度のご案内

		ボランティア保険		
補償内容		ボランティアがボランティア活動中に①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。		
補償金額	傷害部分	Aプラン		Bプラン
		死 亡 1,115.3万円		死 亡 2,302.1万円
		後遺障害 33~1,115.3万円		後遺障害 69~2,302.1万円
		入院 (1日あたり) 5,900円		入院 (1日あたり) 8,700円
補償金額	賠償部分	通院 (1日あたり) 3,800円		通院 (1日あたり) 5,600円
		手術保険金 (1事故1回) 5.9~23.6万円		手術保険金 (1事故1回) 8.7~34.8万円
		最高 3.5億円		最高 4億円
		死 亡 30万円		死 亡 30万円
掛金	ボランティア1名 (年間) 300円		ボランティア1名 (年間) 500円	ボランティア1名 (年間) 2,000円
	※中途加入の場合も300円		※中途加入の場合も500円	※中途加入の場合も2,000円

		こども保険	ボランティア活動行事保険
補償内容		地域で活動しているこどもを中心としたグループが主催する行事参加中に参加者であるこどもが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」の制度です。 (宿泊をともなう行事は対象外ですから、右の活動行事保険(Ⅱ型)で加入して下さい。)	ボランティア行事参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または、参加者が第三者(他の参加者も含みます)の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。
補償金額	傷害部分	死 亡 500万円	死 亡 500万円
		後遺障害 15~500万円	●ハイキング参加中、交通事故でケガをした。
		入院 (1日あたり) 3,000円	●ソフトボール大会参加中、つきゆびをした。
		通院 (1日あたり) 2,000円	●ハイキング参加中、参 加者が誤って後続の参 加者にケガをさせた。
補償金額	賠償部分	手術保険金 (1事故1回) 3~12万円	●キャンプ参加者が転倒して骨折した。
			●運動会参加者が足をねんざした。
			●ハイキング参加中、参 加者が誤って後続の参 加者にケガをさせた。
			●キャンプ参加中、誤つて他人の用具を壊してしまった。
掛金	こども1名あたり(年間) 200円		I型(宿泊なし)→名簿不要 ※ただし名簿がある場合は、自宅から会場までの往路途上の事故も補償されます。
	※中途加入の場合も200円		II型(宿泊あり)→名簿必要 1泊2日 283円
		参加者1名につき 30円	
		※ただし、1回の行事につき50名以上で申し込んで下さい。	
		4泊5日 370円	

市町村社協ボランティアセンターで受け付けます。